

今月の
一枚



祠堂法要に際して久しぶりに満たされた水舎の水（9月12日、順慶寺境内 祠堂法要にて）

◆◆ 満たされた水舎 ◆◆

コロナ感染症のため、ヒシャクを使うこと、水舎に立ち寄ることを懸念して水舎の井戸水は給水停止となっている。盆中に一時水を出し、その後満水としたのは祠堂法要とお彼岸のひとつき。水舎の水が入ると、寺に詣るほとんどの参詣者はここに立ち寄る。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2020年（令和2年）

10月号

VOL.324



今月のブツダの言葉

欲を離さない者は

施しを喜ぶことがない



◆もの惜しみは苦しみに繋がる◆

今月の言葉も、釈尊の『ダンマパダ』からの引用です。

「もの惜しみをする人は

神々の世界におもむけない。

じつに、愚か者は施しを賛え（たた）ない。

賢者は喜んで施しを行い

来世には幸せになる。」（一七七偈）

日本では、古来より、もの惜しみを、その度合いによって、「儉約」と「吝嗇」という言葉で使い分けをしています。また、欲が絡んだものの惜しみを、「慳貪」とも言います。

辛い生活の中で、苦しい毎日を送ると、少しでも質素な生活をしようとするのが本音。今日生きているのが精一杯の中では、贅沢はなかなか考えられません。「儉約」は、無駄な出費を抑えるという意味で、悪い意味ではありません。

儉約の度合いが進むと、世間からはケチと呼ばれます。ケチを表す漢字は、各とか嗇で、どちらのもの惜しみをすることを意味します。二つ重ねる「吝嗇」はどケチという意味となりま

◆施しは幸せを産む◆

す。仏教で使う「慳貪」は、もの惜しみをして欲張りなことを言いますから、それよりは欲が全面に出ていない分、まだ健全だとも言えます。昨今、コロナで日々の生活が大変な中、私たちの生活は、「儉約」「吝嗇」「慳貪」のどれかに該当しそうですが、釈尊の言われるように、日々賢明な生活をして、施しを喜ぶことだけは忘れないようにしたいものです。

『正信偈』に出てくる、曇鸞大師を菩薩と崇めたのは、①梁の天子・武帝。武帝は、中国

若院のテーマカット NO.19



が南北に分かれていた時代の南側の梁という国の初代皇帝。もともと道教を信じていましたが、やがて仏教の教えに導かれ、熱心な信者となり、国に多くの仏教寺院を建て、数百万の僧侶を供養しました。また、自らも受戒を受けて、法衣をまとい、経典を講じたと言われています。

丁度同じ時期に活躍したのは、南インドからやってきた中国禅宗の祖師・達磨大師。達磨大師も南インド国王の第三皇子とされる身分の高い僧侶でした。

普通元年（五二〇）、達磨大師は、はるばる海を渡って中国へ布教に来ました。ときに武帝は、天竺からやってきた高僧・達磨大師に質問をします。武帝「朕、即位して已来、寺を造り、経を写し、僧（僧伽）を供養すること、数え切れないほど

である。これにはどのような功德が有るか」

達磨「特別に功德はありません」

武帝「どうして功德がないのか」

達磨「影が形に随うように、有るといつても実のものではない」

さらに、問答は続きますが、こうした達磨大師の無愛想な返答に、武帝は納得せず、ついに感謝の意を示さなかったとされます。

達磨大師が言いたかったのは、見返りを求めて（欲を抱いて）施しをして、人から注目されたり、褒められたりしなければ、怒りを抱き苦しみを深めてしまう。報いや功德があるから施しをするのではなく、影が形に随うように、施しをすることそのものが自らを幸せにするのだと。

仏教がいう、布施の心は、施しのできる身を喜ぶことをいいます。

②【達磨大師】

西域南天竺国において国王の第三王子として生まれ、中国で活躍した禅僧。五世紀後半から六世紀前半の人で、中国においては、南北朝の宋の時代に宋境の南越に到来。梁の武帝と謁見した後、有名な問答を展開。その後、梁を去り、北魏に移り、洛陽郊外の嵩山少林寺にて、壁に向かって九年坐禅を続けたとされる。中国禅宗の祖である。

《第六回 疫病の御文》

先日修練という本山での研修に行ってきました。そこでは講義や座談、声明の練習をするのですが、そこで疫病（四帖目第九通）という御文を読みました。流行病で死者が出る中、蓮如上人が書かれた御文だそうです。

コロナという流行病に右往左往する昨今ですが、時代は違えど人々の悩むところは変わらないのだと思いました。折角この時期に疫病の御文を読む機会をいただきましたので、その教えを改めて尋ねていきます。

念仏を欲ぶ人 妙好人の世界

[第98回]

《味おうてくれ》
ものだね きち べえ
物種 吉兵衛
(6)

《死んで行けませぬ》

堺の妙好人・吉兵衛。晩年、妻のぶを一人看取って、慶び満ちた境地を頂きました。もちろん、ぶが亡くなったことは辛く悲しいことでしたが、それ以上に、お浄土に趣く人を見取れたという慶びが勝っていました。そういう気持ちになったのは、若い頃からの聞法のおかげに他なりません。

的にも、世間的にも何も問題はありませんでした。二十五歳くらいから聞法を続けて以来、最も大きな聞法の課題がおきてきたためです。

吉兵衛の『言行録』には、

「お互いにこうして坐っている間も、毎日命は向こうへ向こうへと移っている。蓮如様の御文章（御文）に平生業成と仰せられている。平生業成といふことは、こうしている間のことや、こうしているうちに、往生の済んだ人がなければならぬ。この落着がどうなるか、どう仕舞いがつか、行つて見んと知れぬというのは疑いの心や。（中略）御和讃、御文章に逢わせていただく、こんな者の助かることがチンと書いてある。それに逢いながら死んでいけませぬ」

吉兵衛は、栽培していた綿の取り入れもせず、門口を出て行きました。

株分け

今年もお彼岸を迎え、夏の暑さ乗り越えて、いつも通り彼岸花が綺麗な花を咲かせています。境内のお墓にも、参詣の方が素敵な彼岸花をお供えされて、華やかです。

ある方が、

「彼岸花も、土の中で株が大きくなり混んでくるから、たまには掘り起こして株分けしないとね」とおっしゃっていました。

「なかなかそこまでは」と苦笑しながらも、ふと思つたのは、子供たちが帰宅し、家族が揃ったときのリビングの狭さ。大きくなった子供たちがギューギューになり、まさに詰まった株の有様です。

長男は仏教の道へ進み、次男も大学卒業、長女は大学進学。子供たちも、そろそろ株分けの時が近づいているのかなあ、と寂しさを感じるこのごろです。

佳帆子

秋風が吹き、大学受験も最後の追い込み



若院の
成長日記

Growth Diary



コロナ禍中の祠堂法要

万全の感染対策で厳修

さる九月十二日、順慶寺にて祠堂法要が厳修されました。新型コロナウイルス感染症の影響が心配される中、感染症対策をして法要が実施されました。

八月の酷暑が終わり、ようやく秋

風を感じ始めた九月。あいにくの小雨の混じる中、例年のように、祠堂法要・俱会一処式が挙行されました。

今年は、あらゆる行事が、新型コロナウイルスのために自粛となってしまっていますが、祠堂法要は、毎年九月に永代経を上げることが、上納者と約束しているために、万全の感染症対策をして、法要を勤めることとなりました。

具体的に感染症対策としてとられ

たのが、

- ① 本堂に入堂される方を五十名までにとどめ、庫裏と玄関を参詣者の控え室とする
- ② 法要は、午前と午後のお勤めのみとし、法話は自粛する
- ③ お斎は中止し、参詣者全員に助六寿司を配布する
- ④ 参詣者にマスクの着用、アルコールの手洗いをお願いする
- ⑤ 受付と役員控え室に、アクリル板を設置し、濃厚接触を避ける

の五点でした。

前日より、一部の総代が、受付と雨除けのためにテントを設営し、当日に備えました。

祠堂法要と俱会一処式を兼修

法要は、午前中を今川地区と三河地区の皆さんを中心としたお勤め、午後を泉田地区と尾張地区を中心としたお勤めとしました。

基本的に、三十分刻みで、本堂の入れ替えをする予定をしていましたが、午前中より俱会一処のお骨納めに来られた方もあり、随時時間を延ばして対応をしました。

参詣者は、新型コロナウイルスの影響を心配してか、受付のみで帰られる方や、他の参詣者に御香資をあつらえる方もあり、例年より少なくなりました。また、本堂でのお勤めは、午前中二回、午後二回でほぼ全員の方に縁をもっていただくことができ、大きな混乱もなく終えることができました。

来たる十一月の報恩講では、今回の経験を踏まえ、法話をしていたいただける法縁となるように、役員一同配慮していきたいと思っています。

境内墓地のコロナ対策

蛇口のハンドル交換

七月にテレビの報道にて、山梨県の小学校で、水道の蛇口をレバー式のハンドルに交換しているところが放映されました。

この作業は、回転式のハンドルから

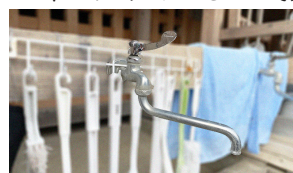
水舎に来襲する鳥対策

バードキラー設置

先月号にて、鳥で困っているという記事を掲載したところ、早速、市場上組の小林万里子さんから、いいものがあると紹介していただきました。

小林さんから紹介されたのは、農業用として使うことがある、バードキ

ひじや手の甲で扱えるレバー式のハンドルに交換することで、感染リスクを減らそうとするもの。順慶寺の墓地でも八月に早速採用しました。



取り替えられた境内墓地横の水栓



水舎に吊り下げられたバードキラー

編集部短信

◆祠堂法要に立焼香卓を導入ー前住職の葬儀以来、本堂での大行事では、立って焼香できる形にとの要望が多く寄せられ、祠堂法要を前に、立焼香卓を一台を加え、二台とした。

◆教如上人寿像修復開始ー八月より京都・若林仏具製作所により、順慶寺の重要宝物の一つ、教如上人寿像の御修復を開始。今回の修復は、護寺会から完全な形で修復を要求した。

◆檜の木の一部を手入れー境内墓地前の檜の木が徒長したため、一部手入れすることになった。

編集雑記

お彼岸を過ぎて、ようやく過ごしやすいい日が続き、気力も体力も充実して来ているのに、寺の行事はコロナの影響で、公開講座や親睦旅行、お食事会などすべて自粛することのつらさをひしひしと感じています(住)。

.....

九月第二週から大学が後期の授業が始まりました。対面での講義でスタートしていますが、またひんやりから再びオンライン講義に戻ってしまうのではないかと心配しています。(若)。



→俱会二処のお骨の受け取り



→感染対策のアルコール手洗い



→アクリル板設置(撮影岡川経康氏)



10月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	木		木-1
2	金		
3	土	↓	
4	日	新型コロナウイルスのため、法要行事を除く、本年の例会等は休会となっています。	
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		木-2
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		
13	火		
14	水		
15	木		木-3
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		木-4
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め)	
29	木		
30	金		
31	土	報恩講事前連絡会(19:00、順慶寺)	

10月行事内容 詳細

例年十月に実施されている公開講座、おつみ会のお食事会など、十月の順慶寺における行事は、新型コロナウイルスの影響による活動の自粛を継続している関係で、すべて催行が見送られることになりました。ただし、二十八日の御命日(寺族役僧による内勤め)、三十一日の責役総代による報恩講事前連絡会は実施いたします。

なお、今年十月に公開講座として予定されていました、歌手でラジオパーソナリティのちひろさんによる公演は、来年十月に延期になりました。

希望者先着二〇〇名様 妙好人カレンダー配布

順慶寺だよりにて、山陰の妙好人を取材し、連載してきたことを記念して、希望者に本願寺派山陰教区製作の令和三年度版『妙好人カレンダー』(源左・佐市・仲造・善太郎編)を、先着二〇〇名様にお渡しします。希望される方は、お早めに順慶寺までご連絡ください。

お知らせ

●**本山報恩講団中止について**
岡崎教区二十一組では、毎年十一月に厳修される本山報恩講に団参させて頂いています。本年も、本山報恩講は厳修されますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、バスでの団参が難しく、二十一組門徒会主催では催行されないことになりました。本山報恩講へお参りされる方は、本年は、個別で参詣をされるよう、お願いいたします。

●**順慶寺の報恩講について**
本年も順慶寺の報恩講を厳修させていただきますが、日程は二日間、両日ともに午前のみ法要といたします。ただし、報恩講での法話は実施いたしません。
●**十月よりお取越を始めます**
本年も十月より各戸のお取越(在家報恩講)を始めます。個別のお勤めについては、コロナによる自粛はせず、感染予防のマスクをして上がります。

正倉院展

じゅんこのときめき歳時記
九月も過ぎて、ようやく秋らしくなってきました。お彼岸を過ぎると、日の暮れが早く、学校から帰るころには、もう日の暮れになっています。

毎年、十月になると、奈良の正倉院展が開催されます。正倉院展は、おじいちゃんが毎年楽しみに出かけていて、おじいちゃんが亡くなる前に最後に出かけたのが、この正倉院展でした。このごろ、日本史に興味が出てきましたが、おじいちゃんと一度正倉院展に出来かけてみたかったです。
そう言えば、今年は、コロナの関



秋暮るる
奈良の旅籠や 柿の味
正岡子規